

# 金融

（担当 家森信善）

## 1 講義の目的

1990年代の日本の金融機関は大量の不良債権に悩まされ、日本の金融システムは大きく動揺し続けた。一方、金融のグローバル化が進展し、金融制度の抜本的な改革も最終局面を迎えている。本講義では、現代の日本の金融が直面する諸課題について受講生諸君と一緒に考えていきたい。

## 2 講義要綱

講義では理論と現実とをバランス良く解説していきたいと考えている。

講義の冒頭では、最新の重要な金融問題を選んで、時事解説的な議論をする。受講生諸君も毎日、新聞の経済欄を読んでいることを期待している。

## 3 講義内容

講義は以下のような流れで進めていく。( )内は、主に関連するテキストの章及び節を示す。ただし、講義の内容・水準はテキストの範囲には限定されない。また、[ ]内の数字は、おおよその授業時間(コマ)数(予定)である。

### I 金融論を学ぶ意義(2コマ)

(1) 金融論の課題と日本の金融の現状(1章)

### II 金融市場と金融商品(4章)(4コマ)

(1) 金利の概念(4.1)

(2) 金融商品(4.2)

(3) 金融市場(4.3)

### III マクロ金融政策の理論と実際(2章)(6コマ)

(1) 金融政策のマクロ経済理論(2.3)

(2) 貨幣の理論(2.4)

- ( 3 ) 金融政策の諸手段 ( 2 . 5 )
- ( 4 ) 中央銀行論 ( 2 . 2 )
- ( 5 ) 金融政策の効果波及メカニズム ( 2 . 6 )

#### IV 金融システム ( 3 章 )( 8 コマ )

- ( 1 ) 金融仲介の理論 ( 3 . 1 )
- ( 2 ) わが国の金融制度 ( 3 . 2 )
- ( 3 ) 公的金融制度 ( 3 . 3 )
- ( 4 ) プルーデンス政策 ( 3 . 4、3 . 5 )

#### V ファイナンスの基礎理論 ( 5 章 )( 6 コマ )

- ( 1 ) 資産選択の理論 ( 5 . 2 )
- ( 2 ) 企業金融の理論 ( 5 . 4 )
- ( 3 ) 資産価格決定の理論 ( 5 . 3 )
- ( 4 ) 金融派生商品 ( デリバティブ )( 4 . 5 )

#### 4 教科書及び参考書

- ( 教科書 ) 家森信善 『教養としての金融知識』中央経済社 1999 年。
  - ( 参考書 ) 藤原賢哉・家森信善編 『現代金融論講義』中央経済社 1998 年。
  - ( 参考書 ) 家森信善 『基礎からわかるマクロ経済学』中央経済社 2001 年。
  - ( 参考書 ) エドワーズ著 家森信善・小林毅訳 『金融業の将来』東洋経済新報社 1998 年。
- その他、適宜、関連文献について紹介する。

#### 5 成績評価について

期末試験の成績に基づく。講義中の私語については厳しい態度で成績評価に反映させる。